

表紙のこぼ (世界遺産シリーズ)



トルコ イスタンブール歴史地区
1985年 ユネスコ世界文化遺産登録

ヨーロッパとアジアを結ぶ海上交通の要衝であるイスタンブールは、政治的、軍事的にも常に重要な都市であった。4世紀にはビザンツ帝国の首都となり、聖ソフィア大聖堂(現・アヤソフィア博物館)など優れた建造物が次々に建設された。15世紀にオスマン帝国が新たな支配者になると、キリスト教会はモスクに転用された。このときに塗りつぶされた漆喰によって、キリスト教会のモザイク壁画は幸運にも壁面に隠され結果として保存される形となった。

大帝国の首都として長きに亘る繁栄が色濃く残る街は、現在でも世界有数の観光地であり、歴史的建造物の一部はホテルやレストランなどに利用されている。

CONTENTS

- 2013年度
FUJITSUファミリー会 春季大会 2
- ICT 基礎講座 Close-Up 6
BYOD (私物端末の業務利用)
導入成功のカギ
- トップは語る 10
株式会社カナモト
代表取締役社長 金本 寛中 氏
- 講演録 12
ベンチャー・キャピタリスト
古我 知史 氏
- 豊かに生きる誌上セミナー
HUMAN HUMAN 14
株式会社ミュゼ
代表取締役 齋藤 直美 氏
- Family's Information 15
- 支部見聞録 (関東支部) 18
From つくば市



2013年度 FUJITSUファミリー会 春季大会

5月17日(金)、帝国ホテルにおいて、2013年度春季大会が開催されました。全国各地から集まった500名を超える会員の皆様の中には、メモを取りながら熱心に耳を傾けている姿もあり、盛況な大会となりました。



大会に先立ち、2013年度総会が行われ、2012年度の活動報告と会計報告の後、2013年度活動方針・予算・本部役員候補がそれぞれ承認されました。

春季大会は、鳥越常任理事の司会のもと、横塚会長の挨拶で幕を開けました。グローバル化の中で苦戦を強いられている日本企業の弱点として、「経営スキルの問題」「ICTの活用の遅れ」を挙げ、会員企業と一緒にICTを軸にビジネスのあり方を見直す1年にしたいとの思いを語られました。

富士通(株)山本社長は、「富士通は生まれ変わります」と宣言。「Fujitsu Technology and Service Vision」のもと、2013年度を新たな出発点とし、ソリューションの提供とともに、ICTを用いて世の中を変えていくイノベーションを起こすことに尽力していくとの決意を述べられました。

式典に続いて行われた講演では、ベンチャー・キャピタリストの古我知史氏から「不確実な未来に挑戦する人間の本能こそが会社の利益・成長の源泉である」など、たくさんのメッセージをいただきました。

古我氏の講演の余韻も冷めないうちに始まった懇親会にも大勢の方が参加され、大盛況のうちに2013年度の春季大会が終了しました。

〈古我氏の講演録は、本号に掲載しています〉



FUJITSUファミリー会 会長
横塚 裕志 氏



富士通(株)代表取締役社長
山本 正巳 氏



司会
FUJITSUファミリー会 常任理事
鳥越 正敏 氏

懇親会



乾杯
FUJITSUファミリー会 副会長
小島 貞美 氏



司会
FUJITSUファミリー会 常任理事
中島 昭能 氏



挨拶
富士通(株)執行役員専務
浦川 親章 氏



中締め
FUJITSUファミリー会 東海支部長
楠井 博敦 氏



東北の地酒コーナー



懇親会風景

2013年度総会報告

2013年5月17日(金)、2013年度総会が開かれました

- 開会挨拶 FUJITSUファミリー会 会長 横塚 裕志
- 議長選出
- 総会議事 第1号議案(2012年度活動報告)
第2号議案(2012年度会計報告)
第3号議案(2013年度活動方針)
第4号議案(2013年度予算)
第5号議案(2013年度本部役員候補)



総会風景



議長
丹呉 長之輔 氏

2013年度活動方針

欧州債務危機などの影響による世界経済の先行き不透明感により、日本を取り巻く経済状況は一層厳しさを増している。加えて、グローバル市場における企業間競争も激化の一途をたどっている。

変化の激しい時代を生き抜くには、これまでの経験や直観に頼ることはできない。最先端ICTをビジネスと社会の変革に役立て、新たな価値を創出していかなければならない。

実際にクラウド・コンピューティングの台頭によって、従来では想定できなかった領域でICTの活用が進んでいる。特にスマートフォンやタブレットといった携帯端末の活用が、個人に止まらず企業にも急速に普及している。

さらには、ICTでビジネスと社会をリードするパワーを備えた人材を育成することが求められている。

これらの状況を受け2013年度のファミリー会は、日本のICTを支えるユーザー会として日本企業の活力にこれまでに増して貢献していく。加えて、2012年度の継続活動テーマであった「東日本大震災の復興支援」は、被災地の復興もいまだ道半ばであり、2013年度も継続して取り組んでいくなど、国内最大のICTユーザー会として、会員企業の人財育成支援やICT活用を通じた事業貢献の実現、会員相互の活発な交流を図る様々な活動を展開し、会員にとって有意義且つ魅力あるユーザー会を目指す。

- ①日本のICTを支えるユーザー会として、会員各位の更なる成長を支援する活動の推進
 - ・クラウド・コンピューティング、携帯端末をはじめとするICTの将来展望、ビジネス戦略や国際競争優位に直結する最新トレンドや企業内適用事例、企業内ICT活用の視察や時事講演など、会員企業の課題解決に役立つ活動を推進する。
 - ・会員各位がICTへの見識を深め、ICTの利活用を経営戦略に繋げられる活動と、グローバル時代に即応できる次代を担うICT人材の育成支援を、会員ニーズへの適切且つ迅速な対応と併せ一層推進する。
- ②地域密着型活動の推進と支部間連携の強化を通じた会員サービスの均質化
 - ・地区セミナーや県別行事等、地域の特性を活かした企画・運営や他支部行事への参加による支部間連携を通じ、会員サービスの全国均質化と参加機会の増加促進・会員活性化に繋げる。
- ③東日本大震災復興への継続支援
 - ・復興が道半ばである東日本大震災の被災地区支援に役立つ活動を推進する。
 - ・被災地区会員の参加機会創出と参加促進に繋がる企画・運営を図る。
- ④先進ICTに関する研究活動の推進と情報共有
 - ・先進のコンセプトや最新技術の適用方法など、LS研究委員会におけるICTに関する最先端の研究活動の推進と研究成果の共有を積極的に図り、会員相互の研鑽・交流を推進する。
- ⑤会員相互のコミュニケーション強化
 - ・固定メンバー制による小規模の分科会・研究会等の継続した研究活動、ディスカッションやグループワークを交えた実践形式の研修会等、受講者の相互交流が図れる活動を積極的に推進し、会員相互の交流を通じたヒューマンネットワーク構築を支援する。

2013年度本部役員

役職名などは2013年5月17日時点のものです。

	●会員名	●役職名	●氏名	●備考
会長	東京海上日動システムズ(株)	代表取締役社長	横塚 裕志	
副会長	(株)デイリーヤマザキ	取締役 管理本部担当	小島 貞美	
〃	パナソニックインフォメーションシステムズ(株)	常務取締役 運用・CIO・人事担当 サービスビジネス本部長	黒野 尚	
理事	日本通運(株)	常務理事 IT推進部長	野口 雄志	会長推薦
〃	(株)トウ・ソリューションズ	代表取締役社長	鳥越 正敏	〃
〃	日揮情報システム(株)	代表取締役社長	中島 昭能	〃
〃	テルモ(株)	執行役員	鈴木 実	〃
〃	(株)エステイ情報システム	代表取締役社長	尾張 充	北海道支部推薦
〃	(株)河北新報社	専務取締役	穴戸 實	東北支部推薦
〃	水澤化学工業(株)	取締役 管理室長	丹呉 長之輔	関東支部推薦
〃	フレックスジャパン(株)	取締役	徳武 初男	信越支部推薦
〃	清水建設(株) 北陸支店	営業部長	中野 久	北陸支部推薦
〃	アイシン精機(株)	情報システム部長	楠井 博敦	東海支部推薦
〃	コクヨ(株)	財務経理部長	小嶋 浩毅	関西支部推薦
〃	(株)サタケ	取締役副社長	福森 武	中国支部推薦
〃	(株)タダノシステムズ	代表取締役	木村 修	四国支部推薦
〃	(株)ユニバーサル・マリン・システムズ	総務室長	飯屋 博	九州支部推薦
〃	(株)りゅうせき	ITソリューション事業本部 統括部長	金城 正一	沖縄支部推薦
監事	(株)みずほ銀行	IT・システム統括部 部長	加藤 昌彦	
〃	朝日生命保険(相)	事務・システム統括部門 契約サービス・システム担当副統括部門長	下中 実直	



2012年度 FUJITSUファミリー会論文

入賞論文表彰

論文表彰では、論文委員会竹中委員長からの論文審査の経緯と結果についての報告に続き、ファミリー会 横塚会長から賞状と賞金の授与がありました。会場は、入賞者の方々に向けた大きな拍手に包まれていました。

2012年度は、新設した「新人賞」を含めまして、約30編のご応募をいただき、秀作論文2編、奨励論文3編、新人賞1編を入賞論文として選定させていただきました。

入賞論文は、例年にも増して会員の皆様に役立つ、実用的なテーマが揃いました。論文委員会としての評価が高いだけでなく、会員企業にとって大いに参考になる内容です。また、新たに創設した新人賞は、業務を経験する中でぶつかった壁にどう対処していくか、新人らしい視点で記述されており、今後の活躍を予感させるものでした。

秀作論文2編につきましては、昨日の「富士通フォーラム2013」の中で発表していただき、多くの皆様に聴講いただきました。2013年度も意欲的なICT事例を募集いたしますので、ぜひご応募いただけますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、論文を執筆いただきました皆様、審査を担当いただいた論文委員の方々にお礼申し上げます、ご報告とさせていただきます。



論文委員会 委員長
竹中 正彦 氏

入賞論文

秀作 賞金25万円

スマートフォンを利用したタクシー配車システムの開発について

●(株)メイテツコム 中嶋 真里子 氏

業務フローを活用した受入テストについて

～消極的なユーザー部門を巻き込むには～

●近鉄情報システム(株) 多本 恵美子 氏

奨励 賞金10万円

業務改革視点で取り組むホスト帳票の撤廃について

●コクヨ(株) 吉田 哲也 氏

社内電話交換網の更新

～IP型交換機によるコスト削減と利便性向上～

●四国電力(株) 大原 享史 氏 高鶴 秀典 氏

ITガバナンス構築・強化に向けた、システム部門現場と経営の一体となった取り組み! スピード! 身の丈に合ったガバナンス構築!

●大同火災海上保険(株) 崎原 太 氏 嘉数 聡 氏

新人賞 賞金3万円

サービスステーションにおける販促動画広告の課題と解決策の提示

●JX日鉱日石インフォテック(株) 山下 真梨 氏



前列左より 山下真梨氏、中嶋真里子氏、多本恵美子氏
後列左より 大原享史氏、吉田哲也氏、崎原太氏

※共著の論文は、代表者に授与されました



ICT事例論文の活用について

FUJITSUファミリー会のホームページでは、2012年度の入賞論文をはじめ、約400編以上の論文が掲載されています。ICTに関する成功事例や先進事例など、さまざまなテーマのICT事例が揃っています。ぜひ課題解決のヒントとしてお役立てください。



論文ホームページがリニューアルしました。Web掲載論文 (ICT事例) バックナンバーを検索することができます。また、2013年度ファミリー会論文の募集要項をはじめ、応募時に必要な各種フォーマット、執筆の際役立つ「執筆の手引き」を掲載しています。

▶ <http://jp.fujitsu.com/family/article/>

※論文の全文 (PDF文章) をご覧いただくには、「FAMILY ROOM」のIDとパスワードが必要です。IDをお持ちでない場合は、新規登録をお願いいたします。

秀作論文の概要

スマートフォンを利用したタクシー配車システムの開発について

(株)メイテツコム 中嶋 真里子 氏

1. スマートフォンを利用したタクシー配車システムの概要

今回開発したタクシー配車システムは、図1に示すように、利用者が手持ちのスマートフォンにダウンロードした専用アプリケーション（以下、アプリという）を使って、簡単にタクシーを呼ぶことができるシステムである。

スマートフォンアプリから注文を可能にすることで、通話料を気にすることもなくタクシーを注文することができる。また、スマートフォンのGPS機能を活用することによって、利用者が簡単かつ正確に自分の場所を伝えることが可能となる。



図1 タクシー配車システムの概要

2. 本開発を通して学んだこと

1. 一度リリースしたものは取り返せない

今回最も意識したことであるが、スマートフォンアプリは、一度リリースしダウンロードされてしまうと取り消しができない。そのため、ア

プリに不具合があったとしても、アップデートは利用者の意思に依存し、アプリ提供者側からはコントロール不能である。その点を意識し、提供者側からコントロールできる仕組みを考慮しておくことが大切である。

2. 見た目の印象を考慮する

スマートフォンアプリは、機能とともに見た目が重要である。美しいデザインが施されたアプリは触っていて楽しく、受ける印象も良いものとなる。文字フォントの微妙な大小、線の細さ、色味などの工夫だけでも、よい印象を与えることができる。技術者は、機能の絞り込みに注力してしまい、見た目の検討を軽視してしまいがちだが、配置場所を1ミリずらす、余白を作るなどで見違えるように印象が変わることを意識すべきである。

3. 利用される環境が多様である

アプリは機種、OSバージョン、ネットワークなど環境が多様である。できる限りあらゆる環境・端末でテストすることが重要である。インストールした後、初めて起動したときに正常に動作しなければ、そのアプリは、二度と利用はされないということを強く意識すべきである。

【受賞者の声】

今回応募した論文は、10年程前から当社で実施している、社内の論文大会に向けて書いたものがベースとなっています。受賞の知らせにビックリしましたが、社内の情報共有を意識して書いたことが分かりやすさにつながり、評価していただけたのだと思います。

業務フローを活用した受入テストについて ～消極的なユーザー部門を巻き込むには～

近鉄情報システム(株) 多本 恵美子 氏

1. システムの概要

近鉄グループ82社、約1000店舗・施設が参加し、鉄道IC乗車のほか、百貨店、スーパー、ホテルなど幅広いシーンで「近鉄グループ共通ポイント（KIPSポイント）」の付与や利用ができる「近鉄グループ共通ポイントサービス」がスタートした。KIPSカードによる購買に対して「KIPSポイント」を付与し、たままった「KIPSポイント」は近鉄グループ各社で利用できるとともに、近鉄特急netポイントなど他のサービスへの交換が可能である。

2. システムの開発体制

KIPSポイントシステム運用開始に向けて、ユーザー部門の近鉄グループが18名、システム部門の当社が4名、及びシステムベンダー（富士通(株)）をメンバーとして、KIPSポイントシステム構築プロジェクトを2010年10月に立ち上げた。

3. ユーザー部門による受入テストの実施

ユーザー部門が受入テストを行えるように、受入テストにユーザー部門担当者が参加する体制（表1）と、受入テストに必要なテストシナリオやテストケースのフォーマット作成などの支援を、システム部門である当社がリーダーシップを発揮して行ってきた。

その結果、最終的には全てのテストを当社とユーザー部門が協働して実施することができた。以下に具体的な要因を三つ述べる。

- ①業務フローの見直し作業や受入テスト準備作業にもユーザー部門が参加する体制を作る
- ②業務フローに沿ったテストシナリオを作成する

③テストシナリオ及びテストケースのテスト仕様書を共通のフォーマットにする

サービス開始後に、ユーザー部門担当者から「受入テストに参加したことで、システムの知識が深まり、各種問合せに速やかに対応できている」と聞いた。ユーザー部門による受入テストは、本来の目的を達成するだけでなく、サービス開始後の業務にも有効であると実感できた。さらに、今後KIPSポイントシステムへのメンテナンスが発生しても、同テスト仕様書を再利用することで、保守コストも削減できると考える。

役割	作業内容
責任者	ユーザー部門1名 テスト承認（範囲、コスト、要因、進捗、品質、など） テスト状況・課題の把握、対策の検討及び指示
プロジェクトマネージャー	ユーザー部門、当社 各1名 テスト内容の確認、承認、責任者への報告 テスト作業進捗管理、課題管理 対策の検討、システムベンダーへの連絡及び指示、夕会の出席
確認者	シナリオごとにユーザー部門2名 テスト内容の確認、承認 業務フロー、申請書、マニュアルとの整合性確認
テスト実施者	シナリオごとにユーザー部門、当社 各1名 テストシナリオ作成、テストケース作成、テストの実施 テスト進捗状況のプロジェクトマネージャーへの報告、夕会の出席
テスト支援者	システムベンダー テストの作業進捗把握 テストの不具合・課題の対応・検討、テスト環境整備

表1 受入テスト体制

【受賞者の声】

今回応募した論文は、ファミリー会論文のホームページにある「執筆の手引き」を繰り返し読みながら書きました。論文を書くにあたっては、「一番書きたいことは何か」をしっかりとったうえで、「なぜそう思ったのか」を見つけ出すことが大切だと思います。